学校だより 菜の花

川崎市立長沢小学校
令和６年９月２日
９月号

これまでの 50 年・これからの 50 年　校 長 中西 憲子

長沢小 HP
（学年だより）

夏休みが終わり、子どもたちの元気な姿が学校に戻ってきました。夏休み中には、地震や台風への備えについて考える機会がありました。「子どもたちの安全について改めて意識し、気を引き締めて教育活動を再開しよう」と職員に話しました。

さて、今年度、川崎市は市制１００周年を迎えました。長沢小学校では児童会で、７月１日の市制記念日に合わせて「川崎市の１００歳を祝う会」を行いました。節目のお祝いを通して、子どもたちがますます川崎市を好きになってほしいです。

長沢小学校も令和７年度に創立 50 周年を迎えます。長沢小学校は、昭和 51 年に新入学の１年生 97 名と生田小、南百合丘小からの２・３・４年生 278 人、全校児童 375 人でスタートしました。学校には、１０、２０、３０、４０と周年ごとに制作された副読本「ながさわ」があります。これらは、長沢小の教職員が「子どもたちの学習のために」と自分たちの手でつくり上げてきたもの、学校の宝物です。最初の副読本には、「私たちのまちにも学校を建ててほしいという人々の願いによって、長沢小学校が開校した」と記されています。地域の方々の思いがたくさんつまった長沢小学校であることが伝わってきます。

副読本の内容からは、まちの様子の移り変わりを読み取ることができます。開校当時には、「長沢で一番多くつくられている作物はぶどう」だったそうです。田んぼや畑、工場や商店もたくさんありました。空から撮影した航空写真からは、住宅がどんどん増えてきたことが分かります。児童数が９００人を超えていた時期もありました。

一方で、どの副読本でも変わらないことがあります。四季折々の草花や樹木、生き物の写真が誌面を飾り、長沢小学校が自然に恵まれていることを感じます。「菜の花」も、たくさん登場します。開校当時、長沢小学校の周りは菜の花畑でいっぱいだったそうです。子どもたちが、「菜の花」のように「明るく・力づよく・心ゆたかに」成長することを願う地域の方々や教職員の思いが校歌にも校章にも表現され、４０周年では「なのっち」も誕生しました。何より、どの副読本でも地域の方々がたくさん登場し、子どもたちにまちへの思いを伝えてくださっています。長沢小学校が地域の方々に支えられてきたことを改めて実感しました。

校長が書く巻頭の「はじめに」には、欠かさず「子どもたちに「『ふるさと』である長沢のことをよく知り、好きになってもらいたい」と記されています。私も同じ気持ちです。副読本は、これまでの長沢のまちや学校を大切にしてきた人々の思いを受け継ぎ、これからの長沢のまちや学校への願いをつなぐ大切なバトンのようです。５０周年に向けての副読本づくりも始まります。これまでに感謝するとともに、この先のさらなる発展を願いながら、子どもたちと次につなげるバトンづくりに取り組んでいきます。保護者の皆様にも、子どもたちと一緒に長沢小学校の 50 周年をお祝していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。